

# 地域医療に福祉、 国際交流…多方面で活躍した 名誉市民・山崎倫子さんの在りし日を偲ぶ

戦中、戦後の混乱期を生き抜き、医療や福祉に尽力。平成14年、83歳で武蔵野市の名誉市民に推挙された山崎倫子さん。今年5月の逝去を偲んで、生涯現役を貫き、常に“人のために”力を注いだ山崎さんの足跡を振り返ります。



## 地域の福祉の先頭に立ち、 生涯現役で活躍

医療の傍ら日本女医会会長を歴任、国連総会の政府代表代理として出席するなど、女性社会の指導者として重責を果たした山崎倫子さん。大正8年に滋賀県に生を受けた山崎さんは、終戦直後の混乱期に中国ハルビン市内に国際病院を開設し、人道医療に尽力。また帰国後は、武蔵野市内に医院を開設して地域医療に注力しました。

昭和62年には自宅の敷地を市に寄付し、全国初の単独型デイサー



平成14年11月、名誉市民に推挙（83歳）

ビスセンターである北町高齢者センターを設立して所長に就くと、高齢者が共に暮らすサービスハウスの先駆けとして世界的に大きな注目を集めました。こうした山崎さんの活動に賛同し、創設当初から約200名ものボランティアスタッフが集結。職員とともにセンターを支えました。

地域の福祉の先頭に立ち、生涯現役で活躍した山崎さんの活動は、平成14年に武蔵野市名誉市民として推挙されたほか、さまざまな賞を受賞され、その温かな人柄や功績が語り継がれています。

## コラム



## 山崎さんを偲ぶ会を開催

去る7月19日、「武蔵野市名誉市民 故山崎倫子先生を偲ぶ」会が市主催で行われました。生前故人と親交のあった市長、副市長をはじめ、医療・福祉関係者などが参列し、式典の後に行われた一般献花と合わせて約100名が参加しました。

式典では、北町高齢者センターのボランティアによる合唱のほか、在りし日の姿や多岐にわたる活躍を納めた映像「山崎倫子先生の軌跡」が上映され、「人のために尽くしたい」という精神を貫いた山崎さんの生涯に思いをはせました。